

《第4号》「グリーンコンシューマー精神の浸透を」

鍋嶋 詢三((社)消費者関連専門家会議理事長)

私は毎朝、最寄の駅まで約20分田舎道を歩いて通勤しています。道筋の家には、毎春マンサクから始まり、ローバイ、ウメ、サンシュユ、コブシ、ミツマタ、トサミズキ、ヒヨウガミズキ、サクラと樹木が花をつけています。その道も右側は人家、左側は田圃、その間は農業用水路と幅1.6メートルほどの農業用道路です。

20年ほど前は、農業用水路にはカエルやザリガニが多く、子どもたちが遊んでいました。今は道路もアスファルト舗装され、用水路も整備され、カエルやザリガニの姿やそれを取っている子どもたちも見かけなくなりました。なにやら寂しい感じのする田圃の風景です。

私が小学生の頃(約50年前)、東京都世田谷区のだぶ川でザリガニ取りをしていたのが、不思議な気がします。やはり日本は、全国的に生き物が住みにくくなってきているのでしょうか。地球全体に人類以外の生物は、人類よりさらに住みにくい環境になっているのでしょうか。

地球上にわれわれ人類だけ増加し、地球環境を汚染している現状から、グリーンコンシューマー運動により、少しでもその汚染スピードを遅らせていくことができるように、グリーンコンシューマーの精神が多くの日本人に浸透していくことを望みます。

以上